

I 研究主題

土曜授業（試行）の調査研究

II 主題設定の理由

本市は、平成24年度に「わかあゆ教育プラン」を策定し、自分と郷土に誇りをもち、明日に羽ばたく人間性豊かな児童生徒を育成していくことを目指して、義務教育9年間を通じた小中一貫教育と教育コミュニティづくりに積極的に取り組むこととした。

小中一貫教育については、小中一貫校の設立を含め、市内すべての小・中学校が中学校区ごとに連携し、一貫性・連続性のある教育を推進しているところである。また、教育コミュニティづくりについては、様々な教育活動において積極的に保護者や地域の方々と連携・共働しながら、地域に開かれた特色ある学校づくりに取り組んでいるところである。

この二つの取組について、現時点で検証してみると、小中一貫教育については、学習指導等における中学校ブロックでの取組が活発になってきており、学力向上についても成果を上げるブロックが出てきているところである。ただし、現行学習指導要領の全面実施による授業時数の増加から、児童生徒が過密感を覚えたり、教師が児童生徒と向き合う時間が不足したり、研修時間が不足したりするなどの課題が見られるところである。

また、学校を核とした教育コミュニティづくりについては、「学校支援地域本部事業」等の取組を生かし、学校・家庭・地域の連携の推進を図っているところであるが、休日等における具体的な取組にまではなかなか結び付かない状況がある。

さらには、本年度のみやぎき小中学校学習状況調査及び全国学力・学習状況調査における本市の児童生徒の結果についても課題が見られたところである。

そこで、本市における児童生徒の学力向上等については、今まで以上にきめ細かな指導・支援の充実を図るとともに、教育コミュニティづくりのさらなる推進を目指すための一つの手段として、土曜授業を実施したいと考える。

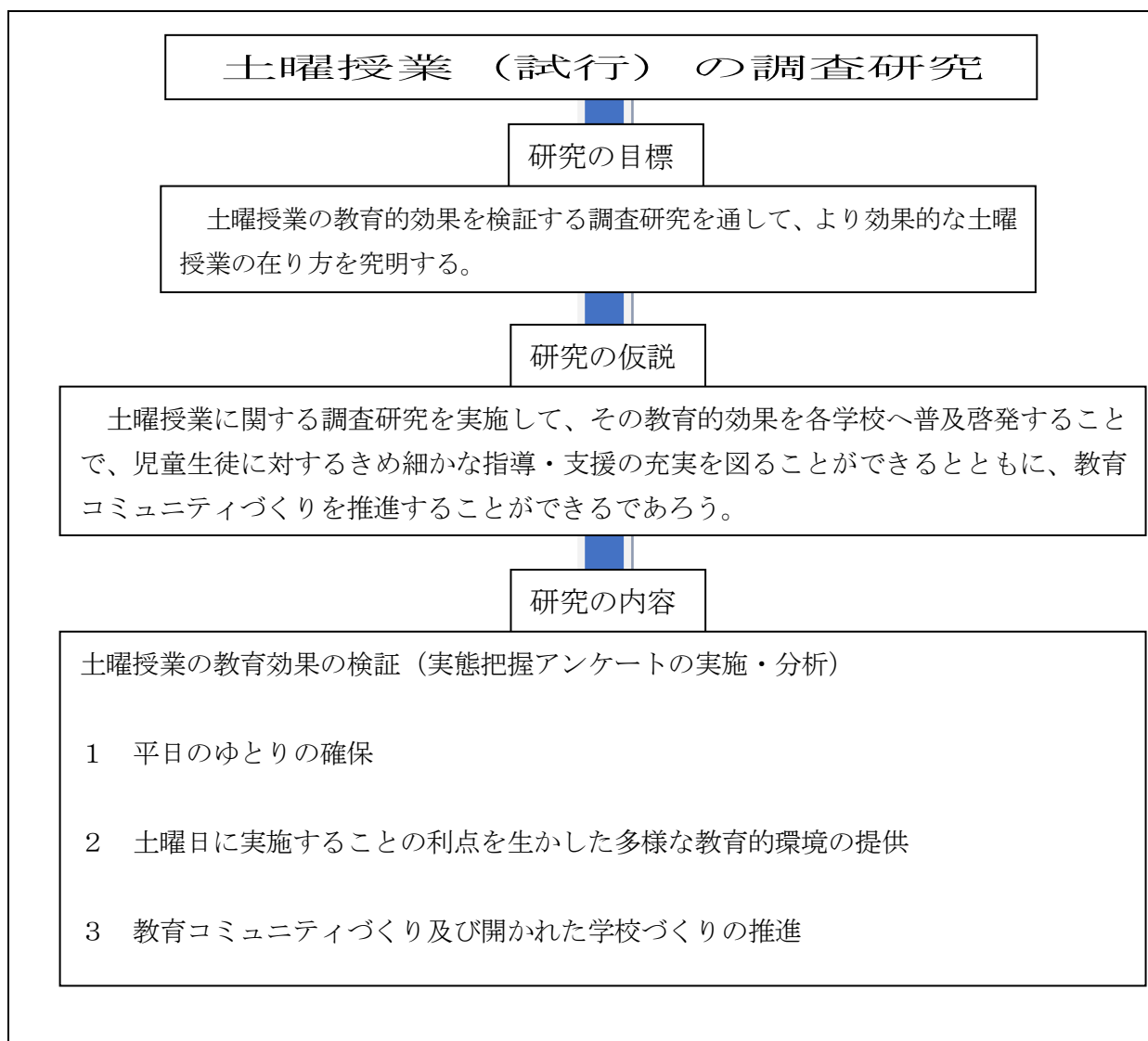
III 研究目標

土曜授業の教育的効果を検証する調査研究を通して、より効果的な土曜授業の在り方を究明する。

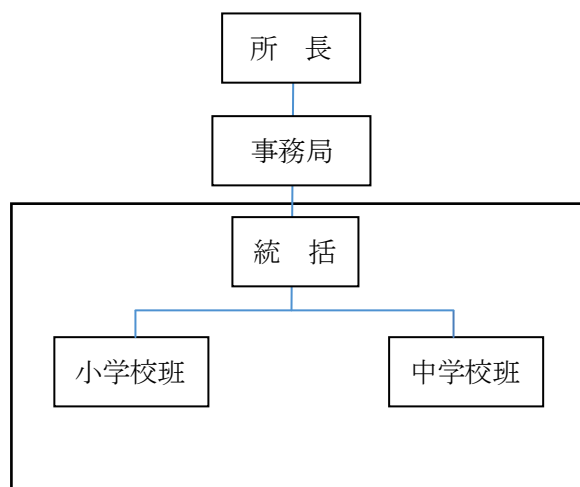
IV 研究仮説

土曜授業に関する調査研究を実施して、その教育的効果を各学校へ普及啓発することで、児童生徒に対するきめ細かな指導・支援の充実を図ることができるとともに、教育コミュニティづくりを推進することができるであろう。

V 研究構想



VI 研究組織



(延岡市学校教育研修所常任研究員)

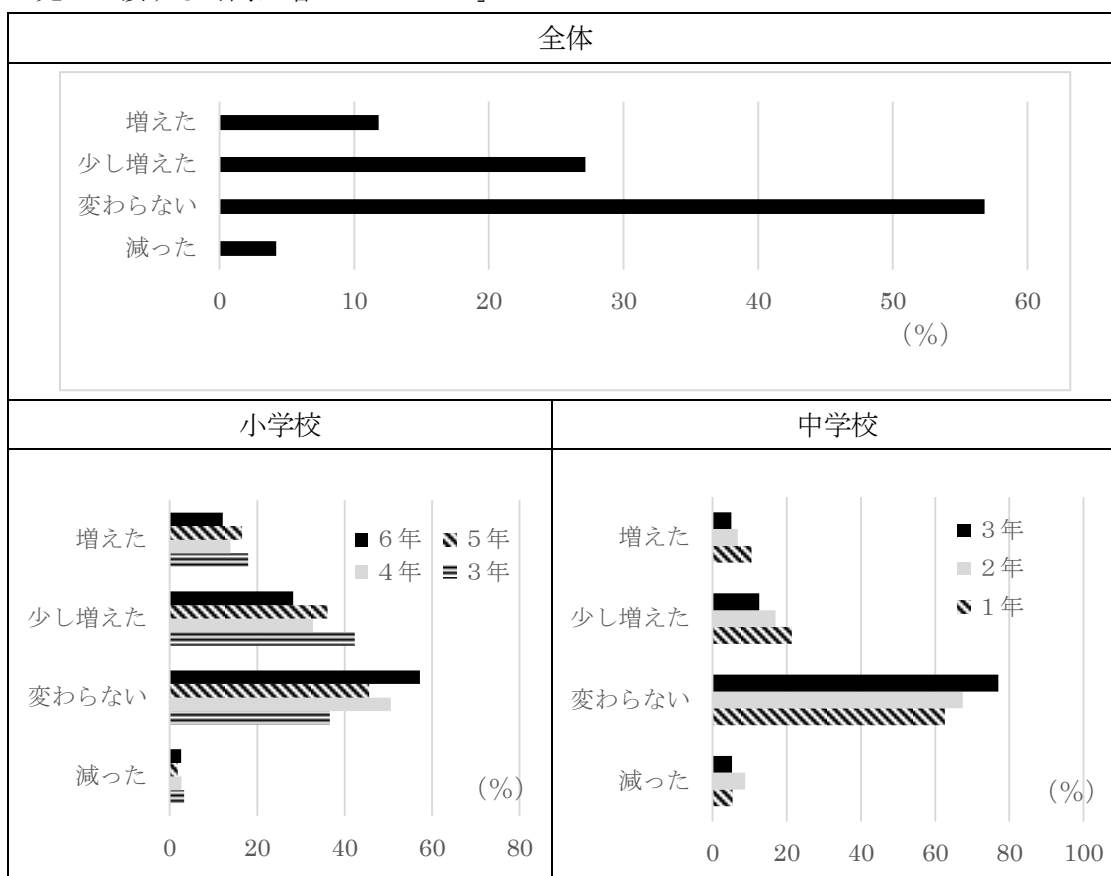
VII 研究内容

1 平日のゆとりの確保

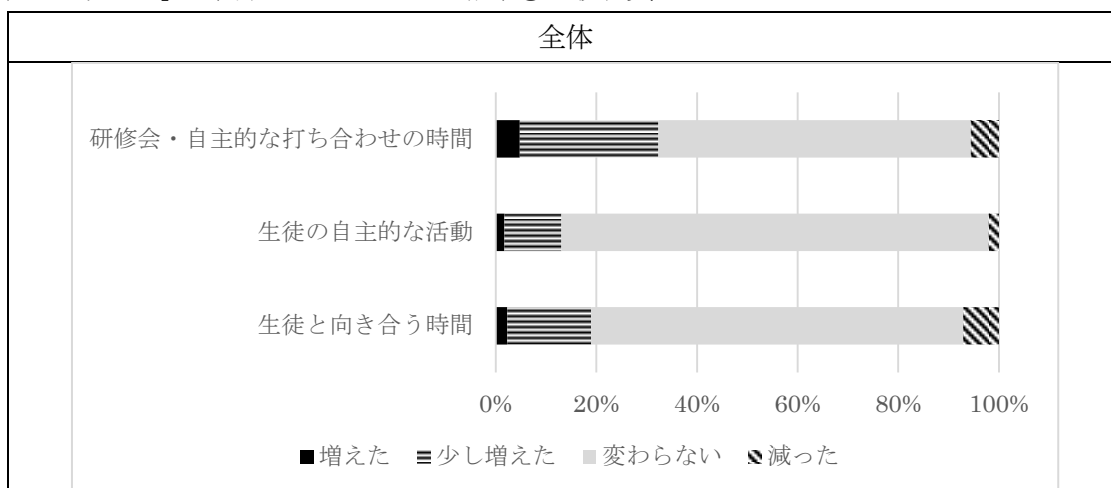
土曜授業を12日間（3時間×12日）実施することで、年間36時間（週あたり1時間）の時数が「平日のゆとり」として確保できる。そこで生まれた「平日のゆとり」によって、以下のことが期待される。

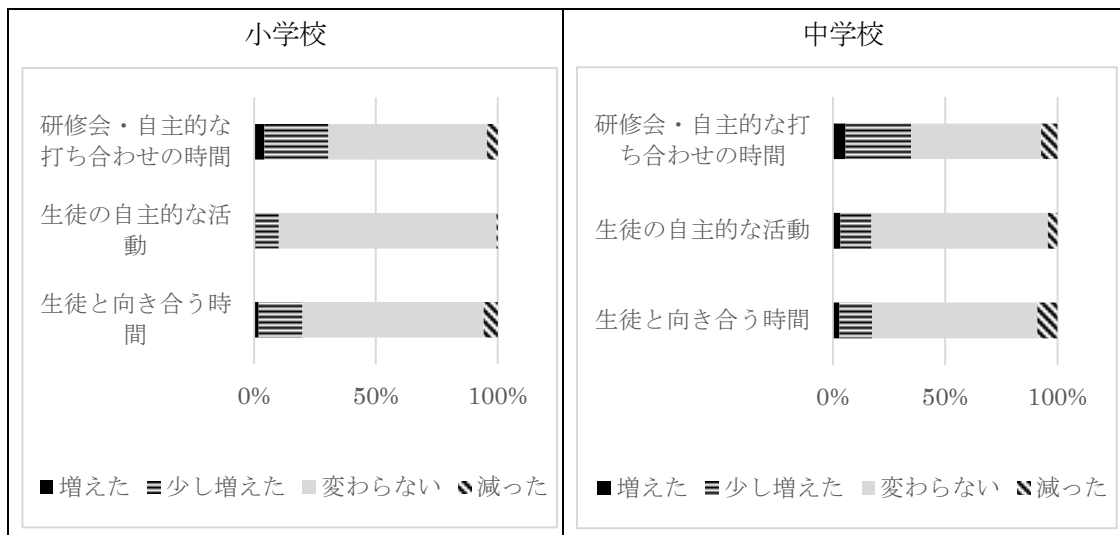
- 教師と児童生徒の向き合う時間の確保
- 児童生徒の自主的な時間の確保（児童会、生徒会活動の推進）
- 教職員の研修会（OJT）の時間の確保

(1) 「平日のゆとり」に関するアンケートの結果①～児童生徒へのアンケート～ 「先生と接する時間は増えましたか？」



(2) 「平日のゆとり」に関するアンケートの結果②～教職員へのアンケート～





(3) 「平日のゆとり」に関するアンケートの結果③～自由記述より一部抜粋

- 平日のゆとりは全く感じない（保護者）
- 平日にゆとりができてよい（保護者）※ 保護者の間でも賛否両論ある。
- 打ち合わせ等が多くなり、逆に多忙感が増している（教職員）

(4) 「平日のゆとり」に関するアンケートの結果の考察

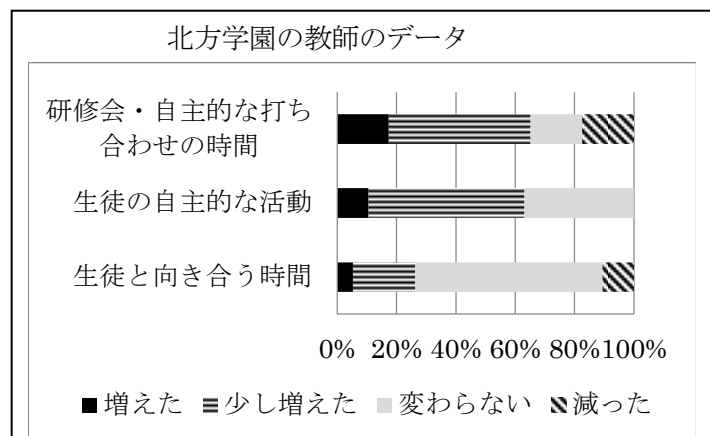
小学校の児童は、どの学年も約半数が「先生と接する時間が増えた」と答えている。保護者は、ゆとりが増えたと感じている方もいれば、そうでない方もいる。教職員は逆にゆとりがなくなったと答えている割合が高い。

これは「ゆとり」や「児童と向き合う時間」のとらえ方にも差があるように思われる。そこで、以下に、「平日のゆとり」の活用例をいくつか紹介する。

(5) 「平日のゆとり」活用例

ア 延岡市立北方学園の例

余剰時数36時間を、教育研修や主題研究、現職教育、小中別会等を行う「学園ミーティング（12時間）」、学力調査や資格取得に向けた補充・発展学習、お互いに教え合う活動を入れることで、表



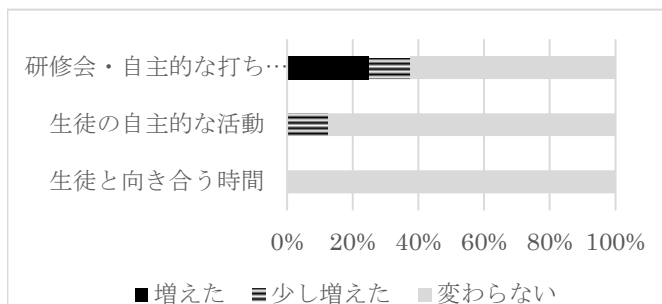
現力や学力の向上を図る「北学：学び愛学習（12時間）」、生徒と向き合う時間を確保し、きめ細やかな生徒指導にあたる教育相談等（12時間）に充てている。

「学園ミーティング」や「北学」は、土曜授業がある週の火曜日と木曜日の時数をカットし、教育相談等は、学期末テストなどの週に実施している。

イ 延岡市立北浦小学校の例

週1あたりの時数をカットせず、教師が多忙を感じる学期初めや学期末に時数をカットし、成績処理や課題・作品処理、個別指導の時間に充てたり、学担が出張時の午後の時数をカットしたりしている。

北浦小の教師のデータ



ウ その他の小学校の例

全校で、火曜日を1時間カットし、その時間に、職員会、職員研修、学年研修を実施している学校もあれば、特に会議や研修等を入れず、教材研究の時間や児童と向き合う時間に充てている。

エ 延岡市立岡富中学校の例

土曜授業の分の授業時数を各週に分散してカットするのではなく、生徒や教師が疲労や多忙を感じている時期にまとめてカットしている。具体的には中体連後や成績処理等で多忙を感じるテスト期間中は、午前中のみ授業として午後の授業をカットしている。

2 土曜日に実施することの利点を生かした多様な教育環境の提供

地域には優れた人材がたくさん存在する。学校では、それらの人材を外部講師として活用して授業を展開することもしばしばある。しかしながら、平日だと学校に来られる外部講師が限定される。土曜授業を実施することで、外部人材が活用しやすくなり、総合的な学習の時間の一環として課題解決的な学習や探究活動、体験活動など多様な学習活動を計画することができる。

以下は、土曜授業において外部講師を活用したり体験活動を実践したりした取組である。

(1) 岡富中学校の取組

7月4日の土曜授業で、一般社団法人全国銀行協会から講師を招き、キャリア教育に関する授業を実践した。「生活設計・マネープランゲーム(100分)」「銀行のしくみ(50分)」の二つのテーマを、1～3時間目の時間を使って行った。

1～2時間目は、「生活設計・マネープランゲーム」を行う中で、20歳代～60歳までの人生を疑似体験しながら、ライフイベントとお金の関係を理解していった。3時間目「銀行のしくみ」では、銀行の役割や銀行員の仕事について映像とスライドで学んだ。講師からの「銀行へ行ったことのある人」の質問には、ほとんどの生徒が銀行へ行った経験がなく、銀行とはどのような業務をしているのか、自分たちとどう関わっているのかを学ぶ良い機会となった。生徒の感想の中には以下のものがあった。

「生活設計・マネープランゲーム」では、今後の生活のためにどのようにしたら良いかということを考えられたので、とても勉強になりました。お金は本当に大切なものなので、勉強したことを頭に入れて自分が将来、家や車などを買う時ちゃんと考えて使えたらいいなと思いました。

「生活設計・マネープランゲーム」を体験することで、楽しみながら人生やお金との関わり方を考えることができたと思います。収入と支出のバランスの大切さを知ることができました。

以上のように、生徒にとっては、人生設計とマネープランの体験、銀行の業務と役割を知ることにより、お金との関わり方を「自分のこと」として考えるきっかけとなる授業となった。



マネープランゲームに取り組んでいる様子



グループで話し合っている様子

(2) 北方学園の取組

宮崎県教育委員会生涯学習課が、「企業の力を教育に！」というキャッチコピーを掲げ、学校、家庭、地域の教育に協力してくれる宮崎県の企業の一覧（企業バンク）をHPで公開している。

北方学園では、平成26年度から、株式会社南日本ハムや黒田工業日向日サイクルセンター株式会社、オフィスM・T・Aプロダクション・サラエンタテイメント等のアシスト企業を活用している。

平成27年度も7月4日の第3回土曜授業において、サラエンタテイメントを招いた。サラエンタテイメントは、声優や俳優等の養成の専門学校であり、小学生は発声練習や朗読の仕方と朗読劇の鑑賞を、中学生は平和学習に関する朗読劇の鑑賞を行った。

アニメの声優として活躍中の池田氏からの直接指導は、キャリア教育という面でも大変意義があった。



代表の教師と児童が発声や朗読の仕方を学んでいる様子



朗読劇を聴いている様子

(3) 南方小学校の取組

第3学年の総合的な学習の時間「のたんこ」において、延岡の名物である空飛ぶ新玉ねぎを自分たちで植え、育てている。10月17日の第7回土曜授業において、南方小学校の卒業生でつくる「第二金曜会」とJA延岡の方を招いて、植え方や育て方、名前の由来や新玉ねぎの特長について学習した。

子どもたちは、一人20苗程を手に取り、手伝ってもらいながら植えた。子どもたちは、「玉ねぎの小さい版だ。」と興味津々であった。延岡市は日照時間が長いことから、おいしく甘い玉ねぎが育ち、東京や大阪に出荷されるほど有名であること、顔の大きさ程大きな玉ねぎが育つ話も聞き、驚いていた。料理の仕方なども学び、収穫後は自分たちの給食にも出てくる予定である美味しい玉ねぎを育てようと、学んだ育て方をもとに、玉ねぎに愛着をもちながら育てている。

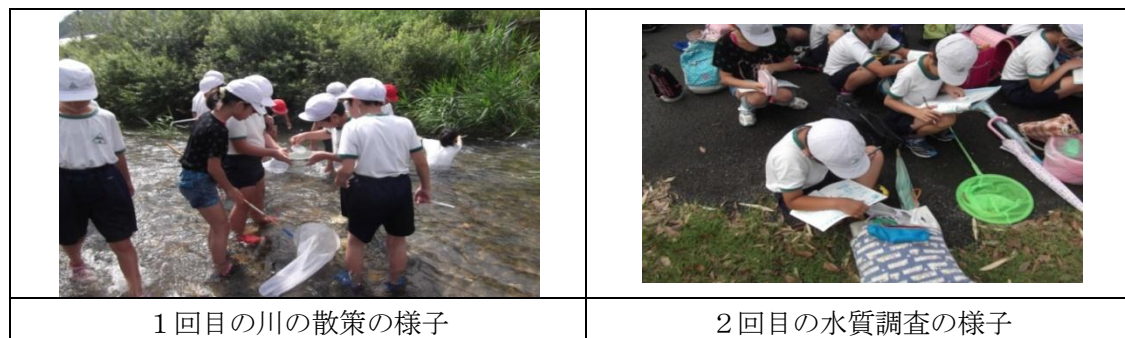


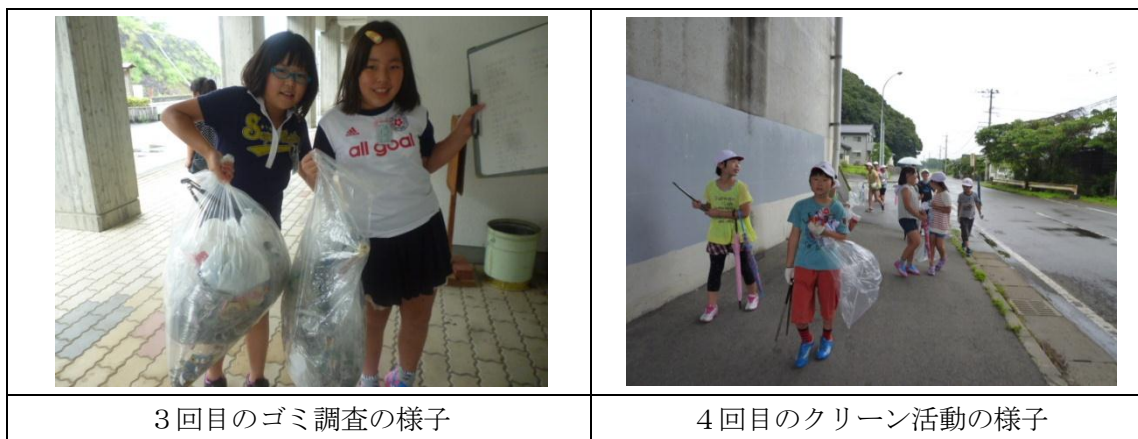
(4) 伊形小学校の取組

本年度から土曜授業が試行されることになり、当初は児童の学習意欲が低下するのではないかという懸念もあった。しかし、逆に土曜日だから効果が上がるという利点を生かして、授業を計画していくことにした。

そこで、伊形小では、保護者や地域の学校協力者の協力を仰いで行う、生活科や総合的な学習の時間の「体験活動」を数多く設定することにした。

一例を挙げると、4年総合的な学習の時間「井替川学習」では、川の散策、水質調査、ごみ調査、クリーン活動などを土曜授業で計画してきた。土曜日ということで、保護者や学校協力者の協力も平日よりは得やすく、また、体験活動への児童の学習意欲も高く、より充実した活動につなげることができた。ただ、野外での活動の場合、天候に左右されるため、柔軟に対応できる計画を立てておく必要がある。





3 教育コミュニティづくり及び開かれた学校づくりの推進

全小中学校で、土曜授業はオープンスクールとし、保護者や地域への関わりを呼びかけている。

しかしながら、アンケートの結果から、参加者が少数であったり、限られた保護者しか参観に訪れなかったりという現状も浮き彫りとなった。

また、体験的な活動を重視している学校の保護者アンケートの中に、「土曜日にも国語、算数を実施して欲しい」という声もあった。土曜授業で生み出された平日のゆとりの中で、国語・算数の補充学習をしていることが周知されていなかったものと思われる。

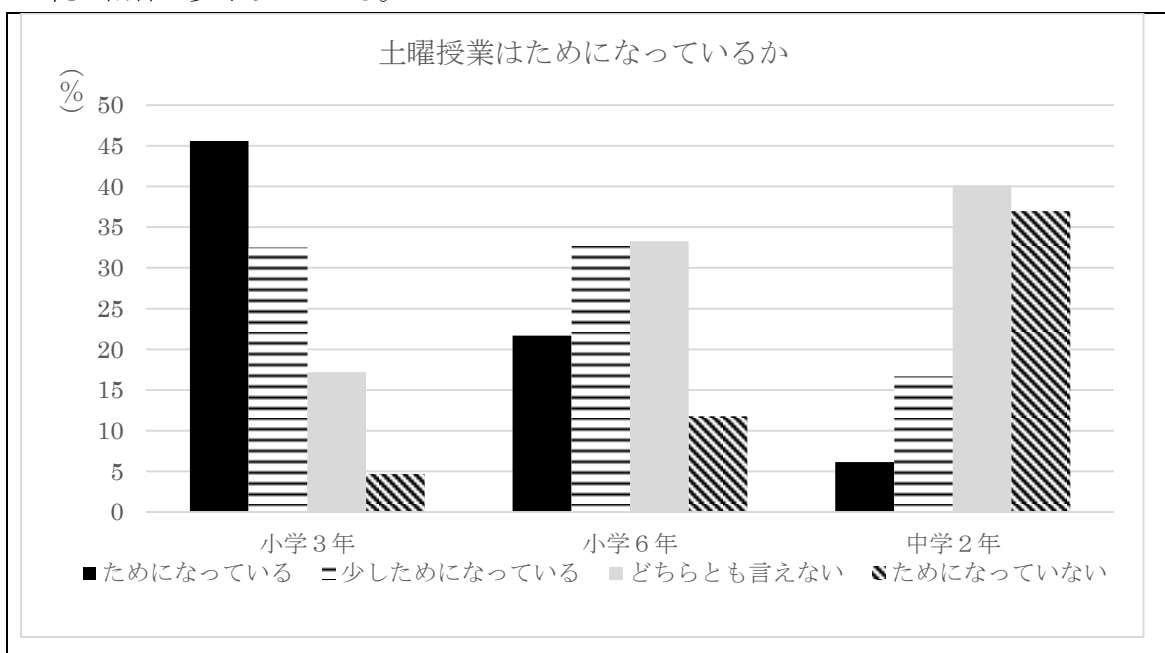
このような実態から、今後は、さらに、学校へ足を運んでもらえるように、また、平日のゆとりの有効活用の仕方を地域・保護者へ理解していただくための啓発も行っていく必要がある。以下はアンケートに記述された地域の声である。

- ・ 地域とのつながりができることで、子どもたちも自分の居場所を選択できる範囲が広がる気がする。
- ・ 小規模校では「いじめ」等は聞かないが、地域の方の参観により、小さいいじめなどが予防でき、子どもたちがやりがいを見い出せる気がする。
- ・ 土曜授業に何度か参加したが、どの学年も子どもたちが興味をもって楽しそうに取り組んでいたと感じる。
- ・ 土曜授業が地域との交流に活用されていることはとてもよい。地域の活性化にもつながる。
- ・ 地域の高齢者は生徒との交流（土曜参観等）を楽しみにしている。今後もこのような交流の場所づくりをお願いしたい。
- ・ ゆとり教育の一環として始められた土曜休日の制度で、日本の教育レベルの低下が見られたのでは？と思う。昔のように、土曜日は半日授業を復活させた方が良いと思う。
- ・ 学校が動いていることで地域も活気づきます。少子化が進む中、子どもたちの元気な声が聞こえてくると、大人である私たちが気持ち明るくなります。
- ・ 土曜授業を積極的に進めて欲しいです。将来の地域の活性化、非行の防止にもよるのではないかと思います。
- ・ 良い試みだと思うが、全体的に目標などの周知徹底がなされていないのではないだろうか。

- ・ 内容的には、もう少し地域を巻き込み、地域とのつながりを強調するカリキュラムがあるとよいのかと思う。
- ・ 全体で実施するのなら良いかも知れないが、延岡市だけで、効果があるのか？しないよりはした方が少しはプラスになると思うので、全体で実施して欲しい。
- ・ 保護者にとってはありがたいかもしれないが、生徒や教師の疲労感も考慮しなければならない。
- ・ 地域性もあるので、すべての学校でうまく地域連携が図られるとは限らない。
- ・ 土曜授業を行うことで、教師・子どもたちが、平日の負担が減少したことを実感しているかどうか疑問。また、これまでの土日休みの感覚が抜けずに、土曜日に学校が？のイメージが家庭にあるのでは？
- ・ 今のところ、土曜授業の効果といえるものはあまり見えてこないように感じる。

4 考察

以下のグラフのように、小学校の低学年の児童は「土曜授業がためになっている」と答えている割合が多いが、学年が上がるにつれ、「土曜授業がためになっていない」と答えている児童生徒の割合が多くなっている。



また、土曜授業のねらいや趣旨の啓発不足からか、一部の保護者や教職員からの賛同が得られていないという現状がある。

特に本年度は、教職員採用試験と土曜授業が重なったり、中体連の県大会と土曜授業が重なったりした。このことが教職員への土曜授業への不満となったが、次年度は重ならないように調査し、回数を9回にして試行すると本市の教育委員会が通達済みである。

また、「子どもたちが疲れている」という印象をもっている教職員も少なくないが、土曜授業を実施しない週明けの月曜日と、土曜授業を実施した場合とを比較したところ、欠席者数や保健室来校者数には差異がない学校が多いことから、このような印象批判に対して、データを示しながら、教職員への啓発を進めていくことも重要であると思われる。

VIII 成果と課題

1 成果

- 土曜授業に関するアンケートを、教職員、児童、保護者、地域の方に実施することで、多様な意見が集まり、それらを反映させ、次年度試行の参考とすることができた。
- 学校が核となり、地域の教育力を生かした土曜授業を展開することで、教育コミュニティづくりを推進することができた学校が多く見られた。

2 課題

- 土曜授業の内容に関しては、各学校の判断や主体性を尊重しており、土曜日に体験的な学習を中心に行っている学校、通常の授業と体験的な学習を半々で実施している学校、通常の授業を中心に行っている学校がある。本年度はそれぞれのタイプ別のアンケートの結果を出すことができなかったが、タイプ別の結果を示すと差異が現れ、今後の各学校での参考となると思われる。
- 教職員の多忙感を軽減するために、地域人材の活用や企業等の活用などを啓発するとともに、地域人材リスト等を作成していく必要がある。
- 土曜授業の意義を地域・保護者へ理解してもらうために、今後も継続した啓発活動が必要である。

【引用・参考文献】

- | | |
|--|----------|
| ○ 平成27年度「わかあゆ教育プラン」 | 延岡市教育委員会 |
| ○ 平成27年度土曜授業（試行）実施要項 | 延岡市教育委員会 |
| ○ 文部科学省ホームページ | 文部科学省 |
| ・ 「土曜日を活用した取組の推進」 | |
| ・ 「土曜授業に関する検討チーム」最終まとめ | |
| ・ 「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」
（コミュニケーション教育推進会議） | |

<研究同人>

延岡市学校教育研修所	所 長	瀬戸山初博
延岡市教育委員会学校教育課	指導主事	西村浩一郎
延岡市教育委員会学校教育課	指導主事	田中 義栄
常任研究員	統括主任	森 年樹（北方学園小学校）
遠山浩太郎（恒富小学校）	永倉 直樹（東小学校）	
原田 建一（東海小学校）	鈴木 直美（南方小学校）	
佐藤健太郎（伊形小学校）	郡 俊一郎（岡富中学校）	
小野 秀俊（旭中学校）	地神 涼介（南方中学校）	
永田 文昭（北浦中学校）		